

日本医療科学大学保健医療学部「衛生学・公衆衛生学」(1・2年生)授業実践報告

鈴木, 研太
日本医療科学大学保健医療学部 : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/4822564>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.63-63, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、健康問題の歴史、公衆衛生活動、生命倫理、健康の測定、人口統計、疫学調査、感染症・疾病予防、地域・母子・学校・産業・高齢者・精神・環境の保健などの公衆衛生に関わる知識について説明できるようになることを目的とした。

対象は、診療放射線学科(1年前期「衛生学・公衆衛生学」)、看護学科(2年前期「公衆衛生学」)、リハビリテーション学科理学療法専攻および作業療法専攻(1年後期「衛生学・公衆衛生学」)、臨床工学科(1年後期「公衆衛生学」)の全学生(必修科目)であった。

対面による全15回の講義を行い、数回の課題提出と定期試験により成績評価を行う予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行および緊急事態宣言等により、本授業はすべてオンラインでの実施、定期試験のみ対面実施とし、毎回の課題提出と定期試験により成績評価を行うこととなった。

学内サーバーの通信負荷、学生の通信環境・通信量の問題を回避するため、pdf形式の講義資料とword形式の課題を作成し、学内ポータルサイトで毎週、受講学生に配布した。講義資料を学習してもらったのち、講義内容の理解を確認するための課題を実施してもらった。

講義資料は対面授業で使っていたものを基本としたが、音声での説明がなくても読めば理解できるようにわかりやすく修正し、補足の説明が必要な部分には担当教員の顔写真とともに吹き出しで説明の文章や重要ポイントであることを強調するセリフ等を加えた。理解の難しい部分は解説動画を作成し、講義資料の中にURLを埋め込み参照できるようにした。動画はGoogleドライブもしくはYouTubeにアップロードし、いつでも見られるようにした。

課題は学内ポータルサイトで回収し、課題の提出をもって講義を受講したものとした。課題の最後に質問コーナーを設け、質問を受け付けた。質問内容と回答はPDF形式のファイルにまとめ、学内ポータルサイトを通じてすべての受講学生に共有した。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

前期講義終了時にアンケート調査を行い、本授業の満足度を調べた結果、非常に満足29.5%、満足44.5%、やや満足17.9%、普通8.1%、やや不満0%、不満0%、非常に不満0%であり、満足と回答した学生が91.9%を占めていた。理解度は、よく理解できた14.1%、理解できた42.9%、どちらかと言えば理解できた39.4%、あまり理解できなかった3.5%、理解できなかった0%、まったく理解できなかった0%であり、理解できたと回答した学生が全体の96.5%を占めていた。以上の結果から、本授業のオンライン授業では、対面講義よりも満足感や理解度が低下することはないものと考えられた。

本授業のオンライン授業で良かった点として、資料がわかりやすく、課題に取り組むことで理解しやすい。吹き出しの説明があることでとてもわかりやすい。わかりにくい部分は解説動画がある点が良い。講義資料をいつでも見直すことができ、自分のペースで繰り返し学ぶことができる。課題により重要な点がわかる。質問をすることができ、疑問を解決することができる。などのコメントがあった。

一方、本授業のオンライン授業で良くなかった点、困った点として、直接授業を受けてみたかった。直接の方が面白かったと思う。面白い話を聞きたかった。わからないところをすぐに質問ができない点。自宅にいたため、だらけてしまう点。資料だけでは理解しにくい部分がある。資料が多く、印刷などが大変。などのコメントがあった。

オンライン授業では、学生の反応を確認しながら進めることが難しいため、講義資料をできる限り理解しやすくし、毎回、理解を確認するための課題を実施した。その結果、満足感や理解度が高まったものと思われる。したがって、オンライン授業で行った工夫は、今後の授業においても大いに役立つであろう。